

## 人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センターでは、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和2年5月 福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター教授  
高橋俊文

### 【研究課題名】

生殖補助医療が周産期予後に与える影響に関する研究—周産期登録とART登録データベースの連結による解析—

【研究期間】 2020年6月から2022年3月

### 【研究の意義・目的】

生殖補助医療（assisted reproductive technology, ART）は、体外受精・胚移植治療に代表される高度不妊治療です。現在わが国では年間、約40万治療周期のART治療が行われ、年間約5万人が出生しています。これまで、ART治療による妊娠はハイリスク妊娠であることが報告されています。ART治療では、新しい技術をすぐに取り入れませんが、それらの治療が母体と胎児にどのようなリスクを与えるのかについては不明なままです。

本研究では、我が国で登録されている医療ビッグデータ（ART登録と周産期登録）を用いて、様々なART治療が母体と胎児に与える影響を明らかにすることを目的とします。

本研究の結果、ART治療の種類と周産期予後との関係が明らかになれば、あらかじめ発症しやすい疾患の予防や早期治療が可能となります。

### 【研究の対象となる方】

研究の対象は2007年から2017年に、①日本産科婦人科学会のART登録参加施設\*で、ART治療（体外受精、顕微授精、凍結融解胚移植などの治療）を受けた方、②日本産科婦人科学会の周産期登録施設\*で出産された方です。

\*ART登録施設および周産期登録施設は以下のURLで検索  
([http://www.jsog.or.jp/facility\\_program/search\\_facility.php](http://www.jsog.or.jp/facility_program/search_facility.php))

### 【研究の方法】

研究の対象となる方（上記①、②）の、ART登録および周産期登録データを用いて研究を行います。①と②のデータを共通の項目で連結を行い、連結された周産期登録データを用いて、ART治療の有無およびART治療の種類が、妊娠中の母体や胎児または分娩にどのような影響を与えるか検討します。

**【研究組織】**

福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授 高橋俊文  
徳島大学 大学院医歯薬学研究部 教授 苛原稔  
埼玉医科大学 医学部 教授 石原理

**【他の機関等への試料等の提供について】**

該当無し

**【本研究に関する問い合わせ先】**

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1  
公立大学法人福島県立医科大学  
ふくしま子ども・女性医療支援センター 担当 高橋俊文  
電話:024-547-1385 FAX: 024-547-1386  
E-mail:totakaha@fmu.ac.jp